

(法第 26 条関係「定款変更認証申請」)
(法第 28 条関係「書類の備置き」)
(法第 29 条関係「事業報告書等の提出」)

令和 6 年度の事業報告書

令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 母と子の虹の架け橋

1 事業の成果

(1) 虹の家

小規模保育所 A 型として 0 歳児～2 歳児の保育を継続。定員 12 名。

0 歳児から 2 歳児までの月齢、年齢的に身体的行動力が異なる子ども全員が同室での生活をしているため、日々、注意深く見守るよう努めている。天気の良い日には散歩に出掛け季節を感じたり、日々の生活や遊びの中でも育ちや学びを促した。

全面自園内給食を提供しており、季節や行事に合わせたメニューや、栄養バランスのとれた食事を心掛けている。薄味を基本とし、年齢別に食べやすい大きさ、柔らかさに気を配り、彩りを考え、目で見て食欲をかきたてるよう工夫をした。その日の献立や写真を入口に掲示し、保護者にも盛り付けや切り方など参考にしていただけるよう、創意工夫のもと食育を推進し、保護者には食生活に関する相談、援助等の機会を作った。

毎月 1 回、講師を招き、運動を目的に体操教室を開催している。走る、飛ぶ、鉄棒やマット、平均台、縄跳び等、全身を使った運動を楽しんでいる。11 月で講師都合により終了となったが、海外の文化や英語に親しみを持つことを目的に、毎月 2 回、えいご教室も開催した。英語の歌やダンス、海外の絵本にも触れ、異文化交流の機会も得られ、子ども達も毎回笑顔で楽しく参加することができた。日々の生活の中でも、英語の曲を流して歌ったりダンスをしたり、英語を取り入れた環境を作っている。

例年通り、平田子育て支援センターにてクリスマス保育参観を行った。普段園で行っている体操や親子の触れ合い遊び、運動遊び、親子レースなどを楽しんだ。自由あそびの時間では、保護者間での交流が見られたり、職員ともゆっくり関わることができ、有意義な時間を過ごすことができた。

また、今年度も中妻地区の津波避難訓練に参加し、近隣住民や施設の方々と一緒に、実際の避難により近い形での訓練を行った。回数を重ねることにより、スムーズに避難できるようになったが、0～2 歳児在籍の当園にとっては、散歩車を押して避難するのには狭さや障害物、段差なども多く、避難経路については再選定していく必要があるのではないかという意見も出た。当園は浸水区域内にあるため、より安全にスムーズに避難するための課題は残った。

毎月 2 回のアドバイザー訪問は、保育への助言や感想、情報交換などの指導をしていただき、よりよい保育の提供のため、職員間での情報共有やスキルアップに努めた。

職員のスキルアップに関しては、園内研修として、釜石消防署での救急救命講習を受講した。心肺蘇生の手順や AED の使用方法についての講義や実践、救急要請をした際の救急隊へ告げる内容や小児に特化した話など、マニュアルにはない部分についても学ぶことができ、講習の意義と実践の重要性を改めて再認識した。

また、今年度 4 月から一時預かり事業も開始した。当初はなかなか周知がうまくいかず伸び悩んだが、徐々に認知され、年間で 50 件の預かり保育を行った。ファミリーサポートセンター事業との協力体制も整っているため、法人内他事業とも連携し、ニーズに沿ったサポートをすることができた。

(2) 平田子育て支援センター

事業開始 5 年目となり、平田地域の方だけでなく、市内様々な地域や近隣市町村、里帰りの際の利用が増えた。利用者と接する中で、相談を受けたり、保育サービスに関する情報を提供したり、利用者と深く関わることができた。釜石市や保健師等と連絡を取り合い、関係機関との連携、協力体制も整えた。

利用者の状況やニーズを聞き、法人内で一時預かり事業やファミリーサポートセンター事業へ繋げることもでき、ニーズに沿った関わり方、サポートができたように感じる。

地域支援活動としては、釜石高校のフィールドワークの一環として学生を受入れ、ワークショップを行い、子育て支援センターの在り方や今後の展望について一緒に考える時間を設けた。事例検討の時間も取り入れ、学生の視線での意見など、自分たちでは発想のない考えも聞くことができ、職員も学びの時間となった。今後は、学生ボランティアについても、積極的に受け入れていく予定である。子育て世代外の地域住民において、当センターの認知度が低く、まずは認識してもらうことが課題として見えた。地域のイベントや活動に進んで参加し、情報を発信していきたい。

また、職員間のコミュニケーションや協力体制の構築をするため、日々の業務内容を振り共有し、ミーティングにおいてもケースカンファレンスをするなど、職員間の意識統一を図った。

(3) ファミリーサポートセンター

ユーザー会員数 20 名、サポーター会員数 13 名、合計 33 名。

受託 5 年目となり、当法人でのファミリーサポート事業も定着してきた。今年度は、外部でイベント託児依頼もあり、公共の施設でのサポートも行った。援助回数は多くはなかったが、虹の家内で行っている一時預かり保育と連携しながら、ニーズに沿ったサポートができた。両親の仕事のためユーザー宅での預かりや、保育園開始時間前の預かりなど、5 年目にして初めてのケースもあり、利用の幅は広がってきているように感じる。必要とされている所に行き届いたサポートができるよう、周知活動も行った。

また、今年度は釜石消防署の救急救命士による救急救命講習を開催し、救命処置に必要な技術や処置を学び、命を預かる大切さを再認識した。交流会では、講師を招いてフラワーアレンジメントを行った。実績報告や近隣の地域での子育て支援についての情報共有など、会員間の交流をする良い機会となった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	事業費の金額 (千円)
支援を必要とする人々を支える事業	「虹の家」 小規模保育事業A型	6.4.1 ～ 7.3.31	虹の家	7人	6ヶ月～2歳児の待機児童 (94名)	23,187
	「ベビーホーム・虹」 小規模保育事業B型		ベビーホーム・虹			441
子ども・子育て支援事業	「平田子育て支援センター」 地域子育て支援拠点事業	6.4.1 ～ 7.3.31	平田子育て支援センター	4人	1ヶ月～未就学児、保護者 (1,232人)	7,901
ファミリーサポート事業	「ファミリー・サポート・センター」 ファミリー・サポート・センター事業	6.4.1 ～ 7.3.31	ユーザー宅、サポーター宅、法人事務所、平田子育て支援センター	13人	3ヶ月～小学6年生 (21人)	931

(2) その他の事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	事業費の金額 (千円)

(備考)

- 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2(2)には、定款上、「その他の事業」に関する事項を定めているものの、当該事業年度にその他の事業を実施しなかった場合、「実施しなかった」と記載する。

(A4)